

今日の相場は上がるのか、下がるのか？

反転ポイントはどこなのか？

日経225先物デイトレに有効な

パターン認識を使うことで

無意味なロスカット、

早すぎる利確を防げるとしたら・・・

※ このお知らせの最後に毎日のレポートの実例を載せています

超シンプルに稼ぐ！

1、1日 3分でOK

2、ミニ1枚（約7万円）からの資金でも利益が狙える
推薦は14万円以上です

3、超シンプル取引

4、サインが明確なので迷わない

寄りでエントリーし大引けで決済するだけ

5、エッジが効いたロジックに基づいているのでどんな相場でもピタリと合う。

システムトレードにありがちな過去のデーターに合わせすぎて

現在の相場に合わないということが起こらないフォワード様式システム

F Xのレバレッジ規制が本格的に導入されたことから

日経 2 2 5 の人気がもり上がってきています。

ユーザー数も右肩上がりです。F Xからの投資家の参入も期待できる有望マーケットです。

これからは 2 2 5 先物の攻略法を知ることが大きな利益に繋がります

まず、日経 2 2 5 はたった一つのチャートを見るだけで利益獲得が出来ます

これは F X とは大きく違いますね。

もちろん F X を否定するものではないですが

日経 2 2 5 の場合本当に勝ちやすい方法があります。

それは デイトレでもポジションを持ったらなるべく最後まで持つことです。

バタバタしないことです。

これはありがたいことに

場中の監視が出来ない方でも、例えば一日3から5分程度の時間さえ取れば、

充分に対応が可能なやり方なのです。

ここから詳しい内容をお伝えしていきますが

その前にこれだけははっきりと申し上げておきます

仮にどんなに勝てる手法だとしても誰がやっても同じように出来ないなら

そんなものはまったく意味がないです。

日経 2 2 5 に癖があるから大きく儲けるチャンスがある

日経 225 には大きな癖があります

1、ギャップアップ、ギャップダウン

これは夜、大証での日経 225 の取り引きが終わるのですが、じつはその後も C M E などの海外市場では日経 225 先物市場が動いています。この価格を引き継ぎ翌日朝の大証の寄り付き（始値）に繋がっていきます。

そのため前日の大証の終値より 離れて 当日の朝 取引が始まると言うことが起こります。

これは途中価格が途切れて 離れたところから繋がるようなイメージです。これが値幅を生み出しチャンスにもなります。

2、SQ

また、3ヶ月に1回（ミニは毎月）第2金曜に決算日があり、この時点で持っていたポジションは強制決済となります。

この決算日にきまる決算をするための特別な価格をSQと言います。

そして、このSQは日経225先物だけでなくOPの決算でもあり

投資家の様々な思惑が相場を動かします。

これが変動を引き出しチャンスに繋がります。

3、ヘッジに使われる

そして、もう一つ例を挙げれば

日経225先物は先物なので現物（日経225に組み入れられる株価の平均）と大きく関係していて現物の需給関係に影響を受けるということと

逆に現物のヘッジに使われると言うことがあります。

これは大口投資家ほど使っています。

このことが大きなチャンスになります。

これらのような日経225独特の癖をパターンに組み込めば勝ちやすい手法が出来ることになります。

日経 2 2 5 は利益は大きく損は小さくできる

「高勝率＝好成績」とカン違いしがちですが、
高い勝率を維持しないとトータルの利益が出せないというのは幻想です

明日をも知れない相場の世界で勝率 9 0 % などそもそも無理な話です。

まず、私が考えるのは

どのような相場になったとしてもエッジのある手法であることと
カーブフィッティング(過剰最適化)を排除するということです

過去の一定の相場には 8 0 % 以上機能したが動きが変わってしまい
現在では 3 0 % しか機能しない……

ということを避けるべきです。

重要なのは過去の勝率ではないです。勝率は 5 0 % でも 4 0 % でもよいので
将来のどんな相場においてでも常にその勝率に近いモノが出るのが重要です。

そして、目指すべきは、

「勝つときには 2 万円、負けるときには 1 万円」という
“損小利大の環境作り” であるべきです。

その理由としては、上記のパターンなら仮に勝率が 4 0 % 程度でも
トータルでは利益となります。

ところが個人投資家のほとんどは、実際の取引ではなかなかそうならないのが普通です。

勝っている場合には早めに利食いをしてしまい、
負けている場合には大損してからにの損切りという傾向に、なりがちです。

これでは“損大利小”です。全く反対のことをしています

よほどのプロ以外は結果的にこのような取引を重ねてしまうので、

長くやればやるほど損失ばかりが膨れます。

特にこの“損大利小”（損が大きいほう）については、
スキャルピングは顕著な例です。

10 円勝って、10 円勝って、10 円勝って、50 円負ける・・・

トレードをしたことがある人ならこれは経験されたことがあると思います。

スキャルピング手法で勝ちまくっているプロ中のプロは本当に勝ちます

見事なまでの勝率で毎日 毎日 利益を積み上げています。

そんな天才的なトレーダーであっても、時々大きなロスカットに巻き込まれています。

このような損大取引が時々起こっても余りある利益を、

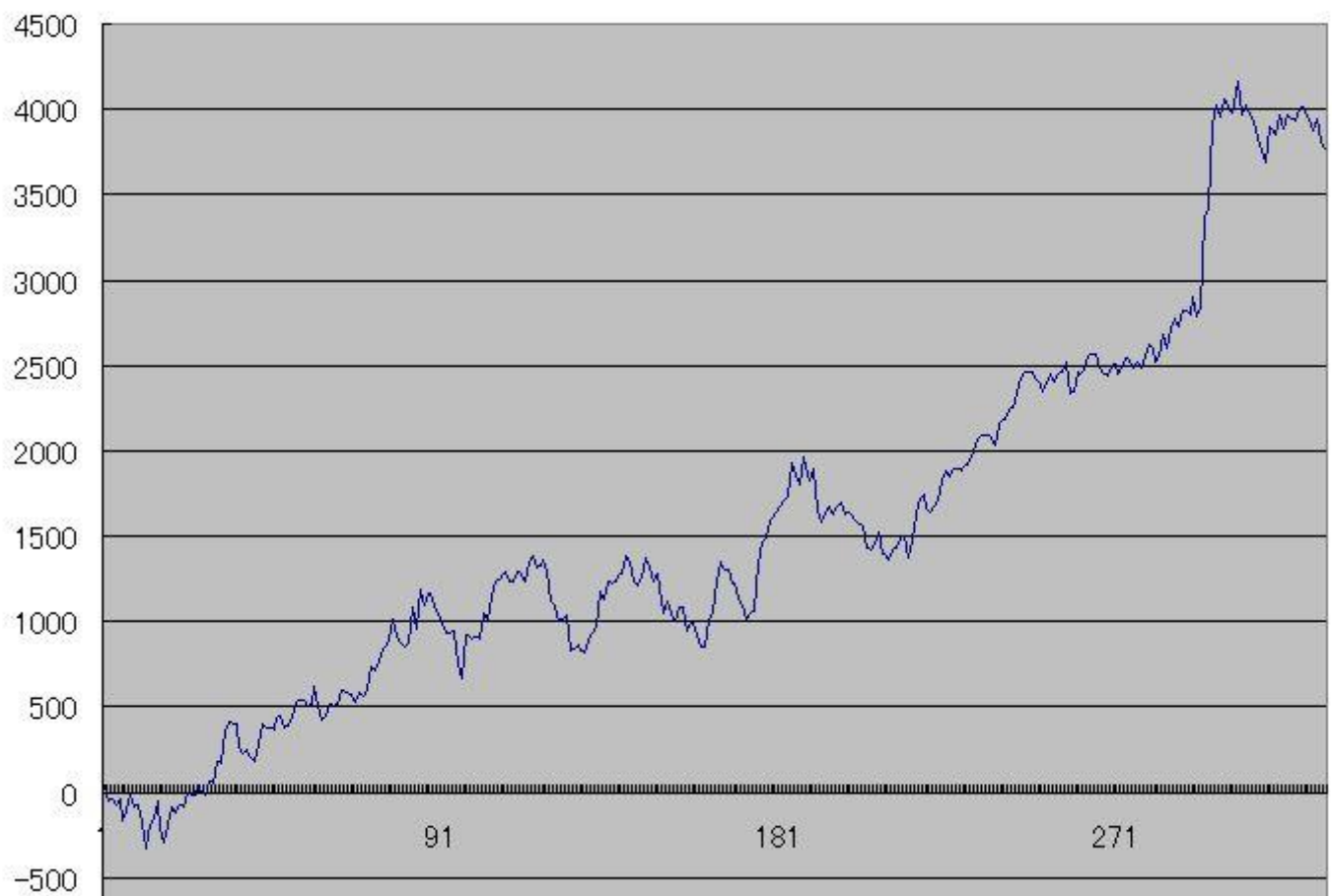
日頃から重ねている人であれば問題はないかも知れませんが、

少なくともこのような取引手法に、一般の人が憧れるのは極めて危険と言えます。

まねしても無理です。彼らは特別です。彼らの手法の再現性は0%に近いです。

では、それで本当に勝てるの？

新バージョンフォワード



ラージ 1 枚の成績です

2008 年年間	4360
2009 年年間	950
2010 年年間	2430
2011 年年間	770

損益曲線はきれいな右肩上がりではない？

カーブフィッティングしていないのでいびつな右上がりとなっています。

2000 年からのデータで検証していますが

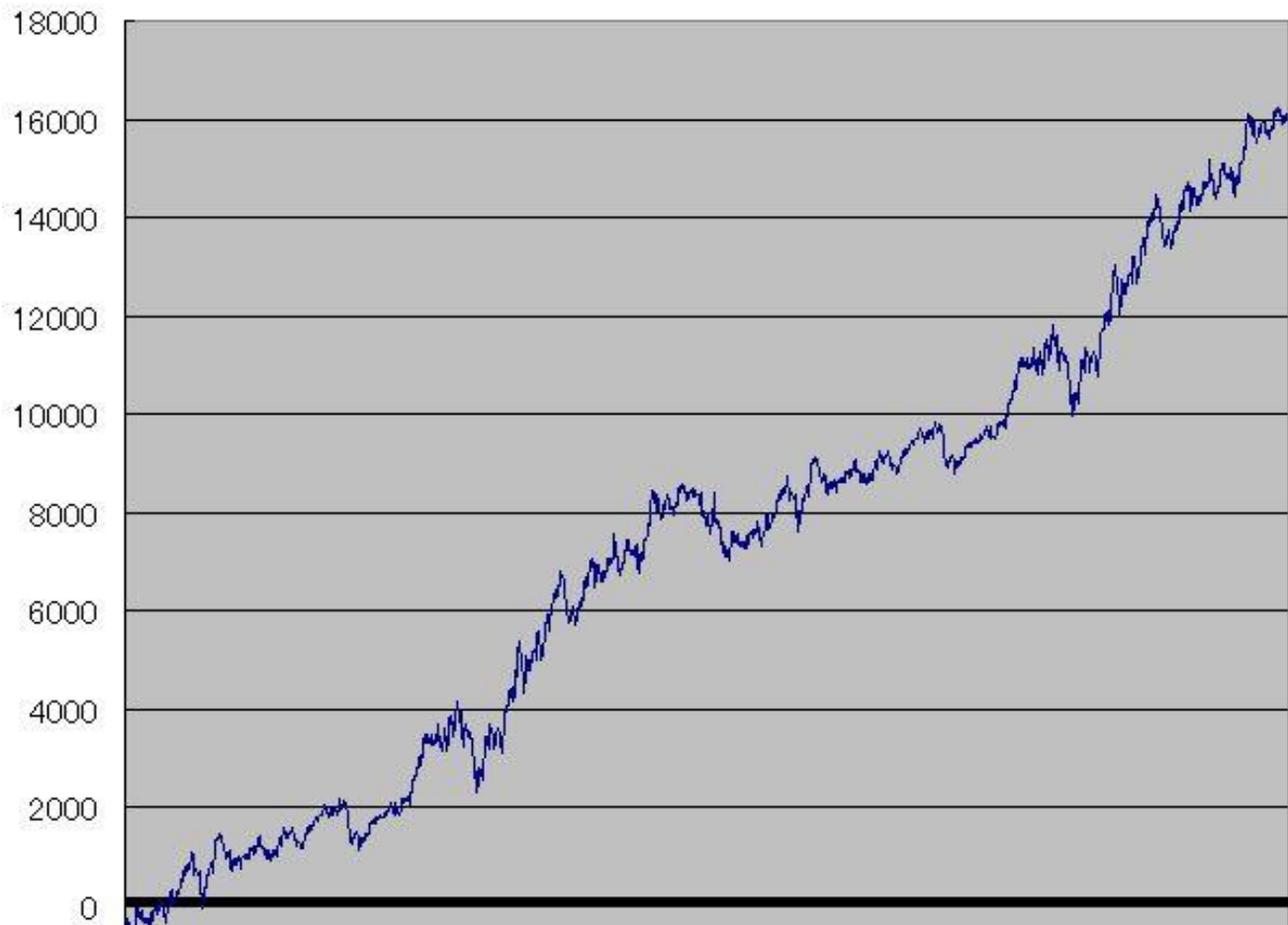
10 年以上前の相場に今、大きな意味があるとは思えません。

ただ、普遍的なローソク足パターンの検証として

バックテストに使用しました。

その結果、右肩上がりで、10 年以上優位性のあるロジックということがわかっていますので古いデータにはこだわっていません。

新バージョン



過去に例の無い相場

今は 過去に例の無い相場です。誰もが感じていると思います。

10年以上前の相場でも普遍的に通用するロジックでありながら過度に過去にはこだわらず直近の相場にいかに対応するかが重要です。

そうは言っても直近の成績を良く見せるために直近のデータに合わせ過ぎると将来的には更に悪い結果を

もたらしします。

これがシステムトレードの落とし穴です。
過去の良いところを切り取って貼り付けるだけの最適化です。

特にテクニカル指標を重視したシステム、パラメータを弄くって作り上げた見掛けの綺麗な大きく利益が上がっているように見えるシステムほど相場の様子が変わると脆いです。

過去をなぞったものはこれからの相場では使えなくなる可能性が高いです。

この世界いつ何が起きるか分かりません。

ロジックを説明します

このシステムのロジックは
ローソク足の組み合わせパターン認識を使っています

酒田五法で有名なローソク足の組み合わせがあります。
はらみ、たすき……。

そういったもので日経225のデイトレードに有効なものを検証、参考にしながら
その他のローソク足の組み合わせも取り入れています。

何日前の、安値、高値、と比較するという数値(日数)は使っていますが
数値を使っているのはこれだけです。
それ以外に数値を使っている部分はありません。

本当は数値は一つも使いたくなかったのですが
オシレーターを使いたくなかったのでこれだけは仕方ありませんでした。

何日前の、安値、高値というのは
現在の相場が過去〇〇日間と比較して上がっているのか、下がっているのか
高値圏にあるのか安値圏にあるのかという判断をするために必要だからです。

皆が大好きなオシレーター系のテクニカル、ストキャス、RSI などは一切考慮していません。

これらは、買われすぎ、売られすぎを見極めるのには
最適なテクニカルですが買われすぎているから
今日売られるとは限りませんし、

売られすぎているから今日買われるとは限らないからです。
何日もポジションを持つのなら有効な指標かも知れませんが

日経225のデイトレでは
知りたいのは今日が、上がる日か、下がる日かです。

それをもとに戦略を立てるとトレードがやりやすくなります。
様々な要因で相場が動くのは事実ですがそういう状況でも

上がる日のパターンと
下がる日のパターンを知っているのといないのとでは
デイトレの成績に大きな違いがでます。

また、
移動平均線や MACD などのテクニカルも使いません
移動平均線や MACD が良くないというのではなくて

数値を換える事で相場にあわせることが出来るものは使用していないということです。

25日移動平均線や5日移動平均線から、〇〇%の乖離の場合
売られ過ぎ、買われすぎ、・・・よって買い、売り・・・

という判断はしないということです。

これは 25日や5日、〇〇%のかわりにいくらでも数字を変えることで
過去の成績は良くなるのですが、この先の相場で使えないからです。

このことについてはNYダウとの関係で詳しく説明します。

NYダウに取り憑かれています

多くのトレーダー達はNYダウを重視します

NYの逆張りシステム、順張りシステムというのを聞かれたことがあると思いますが
NYが上がれば日経225を売る、買う・・・

これは非常に魅力的な方法で
皆が取り憑かれてしまう危険な方法でもあります。

話を簡単にしますので興味があれば下記を試してみてください。

前日のNYダウの騰落率に対して、前日の日経225の終値から当日の日経225の
始値(気配やCME、SGX等海外市場の価格から予測)の騰落率を比較し

ある数値(パラメータ)を超えて日経225の騰落率が大きければ、または
小さければ日経225を売る、または買う・・・

というシステムを作ったとします。

これはパラメータ(数値)を動かすことで
そのときの相場にあわせたそこそこの結果を出すシステムを作ることができます。

パラメータをプラスにして順張り、マイナスの数値にして逆張り・・・と
いうようにその時々の相場にあわせて最適なパラメータを
探すことが出来ます。

ここまで単純な話では無かったとしても
数値を動かせるシステムというのは多かれ少なかれこういう面があります。

これの何が悪いのか？ということですが

一番の問題は

過去の相場の後追いになり、見ための過去の成績は良くなっても
これから先の相場にはつかえないということです。

相場が変わってきたらパラメータを変えて、今度は順張りだ、逆張りだ
32%から26%へ変更だ・・・と相場を後から追いかけて行くだけで

現実には使えないということが起きます。

NYダウの呪縛からの開放

しかし、私も含めて

NYの逆張りシステム、順張りシステムというコンセプトが魅力的で
取り付かれている人も多かったのではないのでしょうか。

そもそもNYダウが日本の相場も引っ張るという幻想から抜けられないのが問題です。

昭和40年代高度成長期から始まって

1980年代後半までの日本経済

今日よりも明日は絶対良くなるとみんなが思っていてそんな空気に満たされていた

幸せな時代・・・。

残念ですがそのときと現在は全く違う環境です。

20年前日経平均が38915円を付けた頃

NYダウは2800ドルでした。その後

金融覇権国となったアメリカは世界中からジャブジャブに資金を流し込んで根拠無き熱狂と言われたNYダウはピーク時には20年前の5倍まで持ち上げられました。

日本は最安値で20年前の5分の1にまで下げました。

このようなことを考えると前日のNYダウを判断基準にすることは

無理があるはずです。

NYダウを基準にして日経平均の翌日の動きを予測する為には

相場の後追いで頻繁にパラメータを変え続けるという呪縛に囚われることになります。

その呪縛から解き放たれたシステムがこの新システムとも言えます。

このシステムはお伝えしたように目先の成績だけをよくしたものではないですし過去も機能したことが証明されたロジックを取り入れています。そのうえでローソク足パターンを絞りフォワードで今も機能しています。

それは言い換えるとずば抜けてバックテストの成績が良い綺麗なシステムでは無いということです。そのため、逆説的ですがこの先、相場が過去とちがった動きをしても安心して勝って行けるためのシステムです。そして、もう一つトレードをする上で重要なのが相場の抵抗ライン、重要ポイントです。

日経225特有の癖は、ある抵抗ポイントに反応すること

最初に日経225の癖についてお話しましたがもう一つ日経225には重要な癖があります。

それは、日経225のデイトレでプロトレーダーが見ている日経225特有の抵抗ポイントです。この重要ポイントで反転したり1日の高値、安値を付けてくることが多いのです。

そのため、毎日の重要ポイントもチェックします。

今回、これらを毎朝メールでお知らせするサービスをあなたに提供させていただきます。

まとめますと

- 1、毎日の相場が買いなのか、売りなのかをシステムで判断します。
- 2、そして更に毎日の重要ポイントを表示して、
- 3、相場の波動分析も含めたレポートをメールでお届けするというものです。

毎朝のメールのサンプルは下記のとおりです。

.....
.....

8月3日

● 今日のオープニングトレードは

売り→ 売り値－210円で利食い 売り値＋160円で損切り

出来ない場合引けで決済します。

(前日の結果 オープニングトレード +20円)

オープニングトレードシグナルは一切の裁量、相場観を排除して
システムに基づいたシグナルをお伝えします

● 日経平均は 8653円 11円高

本日は重要変化日です。

(1日、2日の違いは許容範囲として変化日とします)

昨日の東京市場はFOMCで緩和見送りとなったことで円安になりました。

78円台半ばまで戻し、輸出関連株が買われましたが

ECB理事会を控え結様子見で、上げ幅を縮めて引けました。

ECBの政策が出てくるというのを織り込みつつ

しばらく相場は買われて戻ってきていましたが

政策が失望される恐れもあるため積極的には買えません。

それよりもどちらかといえば

想定外のポジティブサプライズがあり

売りポジションを抱えていた場合の

買い戻しリスクの方が大きいとみられ

売りは買いよりも怖いというのが市場関係者の心理状態でした。

ですが、

ECBは2日の理事会で、主要政策金利を0.75%に据え置き

下限金利の中銀預金金利もゼロに、

上限金利の限界貸出金利も1.50%にそれぞれ据え置くことに決めました。

7月の理事会で実施した0.25%の小幅利下げの効果を見極めたいということのようです。

そして、

イギリス中央銀行は2日の金融政策委員会で、

資産買い取りプログラムの規模を 3750 億ポンドで維持することを決めています。

こちらも

先月に拡大した購入枠の実体経済への効果を見極めたいということのようです。

欧米の株式市場では

ECB理事会でユーロ圏危機の抑制に向け迅速な対応が打ち出されなかったことから、

失望売りが出ています。そして円高になっています。

NYダウは92ドル安の12878ドル。

ドラギ総裁は、国債買い入れに反対しているドイツを見据えながら

まずは、国債買い入れでEFSFとESMを活用するという

決定があればECBによる大規模な資産買い入れも行う可能性があると言っています。

これは、9月にも国債買い入れを行うかもしれないということでもあり

次回のFOMCでも追加緩和が既定路線とされてきています。

そういう状態でも、早急な対応がされなかったという市場の反応で

スペイン国債 イタリア国債とも利回りが上昇しています

スペイン10年債は7.10%と、前日から36ベースシ上昇。

イタリア10年債は6.31%となっています。

それならば9月にFRBもECBも市場の予想通りの政策を

打ち出してきた場合に、どの程度マーケットがプラスの反応するのかと疑問が残ります。

一方、

日経平均は、いよいよ 要注意、動き出すと思われる

変化日を迎えています。

昨日、ザラバ高値は 8705円までで

8732円の基準線 で叩かれ、

ザラバ安値は 8635円となりました。

安値は 雲の下限 8627円でサポートされるという

狭い中での収束状態となっています。

25日 変化日に 安値 8328円をつけてから

一旦の戻り目途まで来ていますので

ここで止まれば

戻りいっぱいとなってもいいポイントとしていましたが

基準線に抑えられる形でなんとか

変化日の 8月3日まで揉みあいながら価格を維持しました。

こうなると日柄的にも

変化日8月3日辺りまで揉みあってから

日柄的にも、戻りいっぱい

8月20日を目指して 再下落・・・底打ち・・・としていた

下記Aのシナリオに、ピッタリと

はまって来る可能性が大きくなっていますが

どちらにしろ(もしも上に離れるにしても)8月3日前後と

8月20日前後というのは要注意です。

そして、昨晚 CME日経225は

一時 8500円まで下げて

8565円となっています。

下値到達後の買いを狙うのが賢明という場面です。

そしてそこは絶好の買い場となる可能性があります。

この後のシナリオとして

考えられるのは、変わらず下記のとおりです。

※

A, 一旦7月25日変化日で、安値を付けて

若干の反発 そして次の変化日から(8月3日)

再下落・・・底打ち・・・というシナリオ。

B, 変化日(7月25日)で底打ち、反発して上昇に向かう

C, 下げが加速する

Aの場合、8月20日変化日前後に安値を付けるとしていた

5月6日に描いていたシナリオが復活となります。

下値目途は5月の波動で計算された

7499円までは下げずに

8135円から7928円程度で止まり、

次の重要変化日に向けて上昇する・・・

という可能性を見ますが

8135円から7928円程度で止まらなければ

7499円も、もしかすると視界に入るかも知れないです。※

株式波動トレードでは変わらず

下値に到達後の買い待ちスタンスで向かい、

本格的な戻りに期待した高値掴みには注意……。

個人投資家は自分の判断を信じて自分の資産は自分で守る覚悟が必要です。

※変化日

8月3日重要 8月20日、

(1日、2日の違いは許容範囲として変化日とします)

●今日の日経先物

昨日の先物は

8650円から8600円でサポートされるか

上限 8700円

としていましたが

ザラバ安値 8630円でサポートされ

ザラバ高値 8710円と

ほぼ想定通りでした。

CMEは 8565円

本日の先物は

8600円で頭をたたかれそう

下限 8500円、8460円

上限 8600円、8650円

というスタンスで見ます。

● 今日の重要ポイント 日経225

8月3日

8690●

8670

8650●

8600

8570

8530

8500

8460

.....

.....

以上が 毎日のレポートになります。

このようなレポートを平日8:00過ぎに 毎朝お送り致します。

レポートの中で書いている相場の反転ポイントを明確に導きだす波動と転換点については、昨年からずっと振り返っただけでも次のような結果となっています

2011年

● 2月17日 高値 10891円を 10716円から10818円と予測

● 2月24日 安値 10428円を 10455円と予測

● 3月4日 高値 10768円を 10660円から10845円と予測

● 5月2日 高値 10017円を 10020円で跳ね返される可能性あり、高値つかみ注意と予測

● 6月17日 安値 9318円を 9143円から9115円と予測

● 7月8日 高値 10207円を 10122円と予測

● 7月14日 安値 9884円を 9911円から9870円と予測

● 10月5日 安値 8135円を 8156円と予測

.....

2012年

● 1月20日 からの短期上昇波動入りを予測

● 2月15日 変化日からの中期上昇波動入りを予測

● 3月27日 戻り高値 10255円に対して 3月28日変化日と予測

● 4月11日 安値に対して4月11日変化日と予測

..... 直近では

● 6月4日 安値 8238円 に対して 6月4日 を変化日と予測

● 7月25日 安値 8328円 に対して 7月25日 を変化日と予測

● 8月3日 安値 8513円 に対して 8月3日を 重要変化日と予測

.....

このように変化日、(時間、日柄)と波動は切っても切れない関係となっています

.....
.....

以上が 毎日のレポートになります。
このようなレポートを平日 8 : 00 過ぎに 毎朝お送り致します。

それではこのサービスの費用についてですが

レンジ 1 枚なら 1 ヶ月に 10 円の幅を取れば元が取れる価格、

ワンティック分の利益を取れば元が取れるという金額に設定しています。

ミニ 1 枚で運用した場合でも 1 ヶ月で 100 円幅を取れば元が取れる価格、
1 ヶ月 9, 800 円でお申し込みいただけます。

レンジ 1 枚なら 1 ヶ月に 10 円の幅を取れば元が取れる価格です。

そして今回、期間限定割引として

9800 円 × 3 ヶ月 = 29,400 円 ⇒ 27,000 円

9800 円 × 6 ヶ月 = 58,800 円 ⇒ 49,800 円

上記特別価格として提供します

明日からオープニングトレードメールサービスをあなたの毎日のトレードの指針としてご利用下さい。

今日の相場は上向きなのか下向きなのか、中期的にはどうなのか、今日の重要ポイントはどこなのか、中期の戻り目処、下値目処、上値目処はどこなのか・・・

これらのことを頭に入れて毎日の相場に臨むのと、目先の動きに翻弄されながらただ相場に付いていくのでは結果が大きく違ってきます。

また、目先の相場の動きだけを見ていると心理的、精神的に失敗することが良くあります。当サービスを利用することで短期、中期のシナリオを描けばそのようなこともなくなります。

システムトレードをしながら相場の流れも掴んでおくのも良いですし、裁量トレードをしながら、システムのサインや上下波動の目処を参考に使うのも良いです。

あなたのトレードスタイルに合わせて利用してみてください。

伊藤義真

> 3ヶ月お申し込みはこちらから <

期間限定お試し価格でお申し込みいただける間に

今すぐこちらからご参加下さい。

> 6ヶ月お申し込みはこちらから <

【投資に係るリスクおよび手数料について】

当商品は、過去の成績と同じような利益が出ることを保証するものではありません。

先物取引は価格変動リスクを伴い、また証拠金を上回る取引を行うことがありますので、場合によっては投資額を上回る損失を被る可能性があります。

先物取引には取引業者の売買手数料がかかります。

特定商取引

Copyright(C)2004-2012 株式会社ルートウェイ All Rights Reserved.